歴史と水辺のプロムナード

備前堀

備前堀の歴史

伊奈忠次像（道明橋）

備前堀は江戸時代初期の慶長15年（1610年）に徳川幕府直轄地をつかさどる行政官であった伊奈備前守忠次によって造られました。

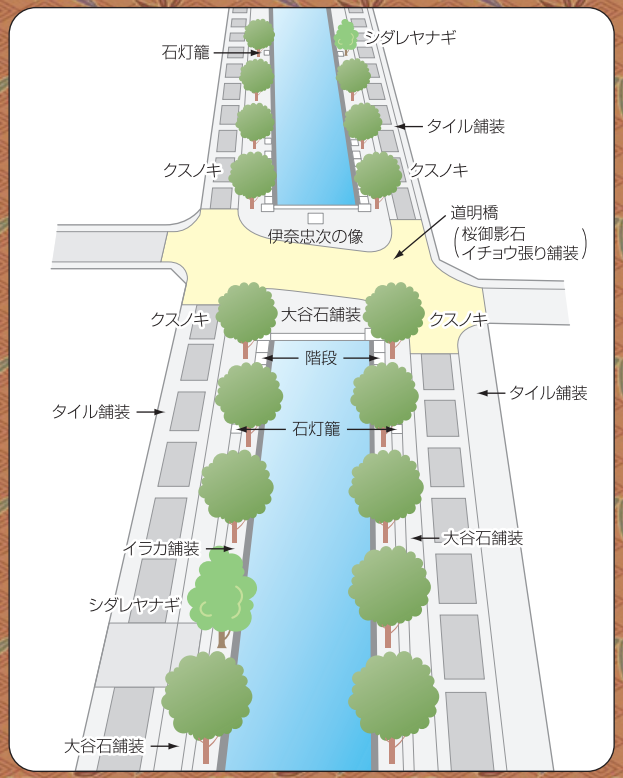
下市地区及びその東部の常澄地区などの農村に対する用水と千波湖の氾濫による治水対策のために開削されたものです。

当初は千波湖から直接備前堀に水を流していましたが、大正10年から昭和7年にかけて行われた干拓事業により、千波湖が現在の形に縮小され、桜川が千波湖から切り離されたため、桜川から取水するようになりました。

大正時代には堀沿いに染物屋が10軒程あり、水がきれいであったため染物を堀で洗い、また子供達も泳いでいたそうです。

現在の備前堀は桜川の柳提水門を起点とし浜田町を経て国道51号に沿って流れ、平戸町の涸沼川に流れ込み、約12Kmの長さがあります。
現在でも農業用水として使われ、江戸時代の商人町の風情を残す数少ない場所として市民に愛されています。

夜景



歴史的水辺空間の整備

備前堀の整備事業は、古くから親しまれてきた堀の風景を維持するとともに、良好な水辺空間の創造を目的としています。

歴史的な風景を演出するため、整備の基調となる堀修復の護岸材に桜御影石を用いることで、水面に映る柳の緑と桜御影石の淡い色合いが、周辺の自然や街並みと調和した空間を創り出しています。

また、沿岸と周辺道路は畳を連想する模様の石を配し、歩道には温かみと和やかさを感じさせる大谷石で舗装しています。

このように沿岸・周辺道路及び橋梁を一体的にとらえ、歴史に触れながら水辺の親水性を肌で感じられる回遊の場所「歴史と水辺のプロムナード」となるよう整備された備前堀は、農林水産省により「疎水百選」に選ばれています。

水　戸　市

アクアトピア・ルネッサンス

甦る水辺空間

水辺は、人間の歴史の中において重要な生活の場であり、コミュニティー空間でもありました。

江戸時代に治水・利水という目的で作られた備前堀も、今では歴史的な風景を生み出す文化財として、また地域の人々の生活と憩いの場として親しまれています。

現在の備前堀は、史跡備前堀保存会からの熱心な要請を受け、単なる護岸の修復にとどまらず、魅力ある歴史ロードを創造するため、昭和63年から平成13年にかけて、沿道と一体的に整備されました。

汚濁や荒廃など都市生活のひずみが端的に現れてしまう水辺を、美しい都市空間に変えようとする水戸市の都市づくりの先進例として、今後も備前堀を地域の皆様にあたたかく見守っていただきたいと思います。

備前堀及び周辺案内図

こいのぼり

整備前の備前堀

通年通水前の姿

水をたたえた備前堀

かつての備前堀は、非かんがい期には桜川からの通水がなかったため、「空堀」となり、景観を損ねていました。

このため、柳堤堰の大改築を行い、平成13年から通年通水を実現しました。これにより、現在の姿である1年を通して水をたたえた備前堀となっております。

石燈籠

灯籠流し

●お問い合せ先／水戸市都市計画部公園緑地課
水戸市中央1-4-1　TEL 029-224-1111
H30.11　2,000部